

ほっといっぶく 平泉寺こぼれ話

～第6話～

平泉寺と一乗谷 (その5)

「大野郡司の朝倉景鏡、平泉寺へ」

平泉寺の力を頼って大野まで落ち延びてきた戦国大名朝倉義景でしたが、いとこで大野郡司の景鏡の裏切りにより、命を落とすこととなります。ここに越前朝倉氏の直系は途絶えることになりました。

主君義景を自害に追い込んだ景鏡でしたが、身の危険を感じ平泉寺に逃げ込みます。景鏡を平泉寺に誘ったのは、八千石を知行すると言われた飛鳥井宝光院であったようです。景鏡は、平泉寺南谷の「城山」または「朝倉台」と言われる所に入り、いくさ奉行となりました。平泉寺が一向一揆の攻撃を受ける2か月前のことでした…。

《次号へ続く》

世界遺産へ向けて

「勝山市世界遺産フォーラム2009」

このフォーラムでは、基調講演とパネルディスカッションを行い、先進地の取り組みを参考にしながら、世界遺産登録を目指す平泉寺の今後の方向性をさぐりました。

西村幸夫先生(東京大学教授)は、「世界遺産への活動は、地域をよく知り、その魅力を高めるきっかけになる」とお話しされました。内容は盛りだくさんですので、今後このコーナーで少しずつ取り上げていきたいと思ひます。 《次号へ続く》



下水道管布設工事 にともなう試掘調査のお礼

3月3日より、平泉寺区で行っておりました下水道管布設工事にともなう試掘調査は、3月16日をもちまして終了いたしました。調査中は、通行などたいへんご不便をおかけし、まことに申し訳ございませんでした。ご協力いただきましたこと感謝申し上げます。



今後は、試掘調査で得られましたデータをもとに、下水道管布設に向けまして具体的に計画を進めていきたいと考えております。

左の写真は、宗像神社の南側道路で見つかった石畳道です。現在の道の下を掘ると、南谷三千六百坊跡の「坊中(ぼうじ)」で発掘されているのと同じような石畳道が姿を現しました。

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 6 (2009年3月号)

【発行】

勝山市教育委員会史蹟整備課

【発行日】

平成21年3月26日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話:0779-88-8113(直通)

メール:shiseki@city.katsuyama.fukui.jp

今号の内容

特集 園地(調整池)

の整備(②、③面)

連載

- ◎世界遺産へ向けて
- ◎平泉寺こぼれ話～第6話～
- ◎発掘現場通信

先進地に学ぼう! -世界遺産フォーラムが行われました-

今月の15日、勝山ニューホテルで「勝山市世界遺産フォーラム2009」が開かれ、市内外から約150名の方が参加されました。

同時に、ニューホテルの1階ロビーでは、平泉寺の発掘調査で出土した遺物や写真を展示しました。また、2階ロビーでは、泰澄による開基、全盛期、一向一揆との戦い、焼き討ちからの復興という平泉寺800年の歴史を、絵と文章でパネルをつくり、展示しました。

西村教授は世界文化遺産の考え方をわかりやすく話されました。



「絵で見る平泉寺800年の歴史」をパネル展示しました。



平泉寺の発掘調査で出土した品々や写真を展示しました。

平泉寺総合整備最前線！ ～その5・園地(調整池)の整備～

まず雨水をうける！

園地(調整池)の整備は、南谷三千六百坊跡の東側で計画されています(下図の緑色の線で囲った部分)。この整備は、大雨の時にたくさんの雨水が集落内に流れ込んで、危険な状態になるのを防ぐために行います。

それでは、園地整備はどのような工事をするのでしょうか。整備地のいちばん北東角には、大きなため池があります。『平泉寺かわら版』No.2とNo.3の“発掘現場通信”^{さいれんいん}でご紹介しました西蓮院推定地の北側にあたり、そして西蓮院推定地の西側には5段の水田跡があります。大雨の時には、これらで雨水を受けとめた後、ゆっくりと下流に流していけるような園地や水路の整備を行います。

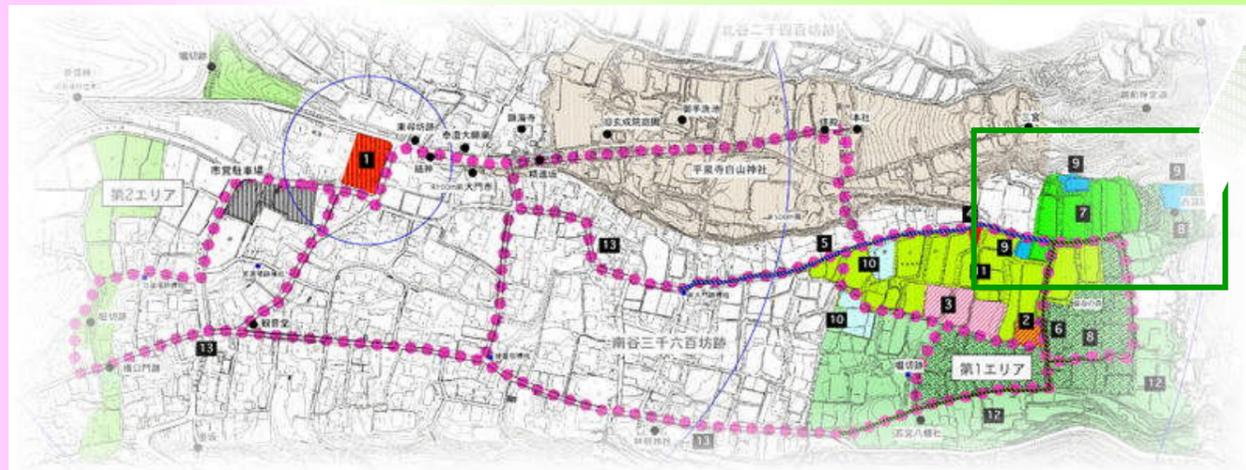


園地整備予定地



西蓮院推定地から南谷を望む

また、西蓮院推定地からながめると、平泉寺の南谷坊院跡が一望でき、^{ひなだんじょう}雛壇状に造成されたお坊さんの屋敷の様子がよく分かります。さらに遠く西側をながめると、遅羽町の山並みや、鹿谷町とお隣の永平寺町との境にある経ヶ岳もきれいに見えます。このすばらしい景色をながめることができるような散策コースも考えています。



5枚の平坦地(水田跡)を利用した調整池



自然いっぱいの西蓮院推定地ため池



安全に水を流すために水路を修復

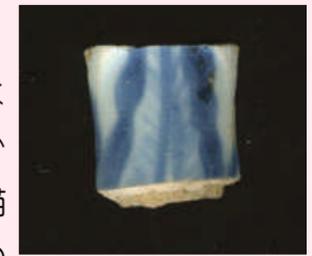
脱色アスファルトで舗装する散策路

南谷を一望できるビューポイント

発掘現場通信 ～調査のポイント～

西蓮院推定地から出土した貴重な陶磁器

今回は、今年度調査しておりました西蓮院推定地より出土した中国製陶磁器の壺をご紹介します。わずか3cmほどの小さい破片ですが、細長い葉っぱの絵が描かれていることがわかります。これは、口がラッパのように広がる壺の首の部分(右復元想像図の青線で囲った部分)であると思われます。このような形の壺は、当時もたいへん珍しく貴重なものとして大切にされていました。つくられた時代は、中国明代のはじめ(14世紀おわり～15世紀はじめ)ごろです。平泉寺の経済力や文化を表現するもののひとつといえます。



左：壺の破片 右：復元想像図